



ADVOCATE “SMALL” VOICES IN COMMUNITY DESIGNING SOCIAL MARKETING

『小さな声を、社会に』 課題を共有し仲間を増やすマーケティング

Medical Studio ジェネラリスト・スクール

「コミュニティ・ヘルスケア・リーダーシップ学科」Day Y 教材

小さな声を、社会に

課題を共有し仲間を増やすマーケティング

貧困、いじめ、自殺、望まない妊娠、虐待。社会にあふれる問題事象の奥には、当事者たちの「小さな声」がある。事象のみを見て彼らの声を聞こうとしないならば、本質は見逃され、事象は繰り返される。その結果として「小さな声」は蓄積するが、無関心な者の耳には届かないか、あるいは雑音となる。

社会の片隅にあふれる「小さな声」を、社会の大多数をなす無関心な者の耳に届けるにはどうすればよいのか。社会変革のための方法論としてのソーシャル・マーケティングの発想を学ぶ。

CASE

あなたは、人口 12 万人の A 市にある総合病院の小児科で働く 42 歳の医師である。首都圏での小児科後期研修を終えたあと、精神科医の夫とともにこの病院に赴任した。大学の同期である夫も後期研修まで首都圏で勤務していたので、少し田舎で働きたいと夫婦でこの病院を選んだのであった。あなたはこの町に来てから 3 年後に長男を出産、その 2 年後に次男を出産した。親や親戚もない町での子育てに最初は戸惑いもあったが、病院付属の 24 時間保育園を利用することができたため、長い産休や育休はとらずに常勤小児科医としての勤務を続けることができた。現在息子たちは小学校 3 年生と 1 年生である。

夫婦ともにこの町が気に入り、2 年前には病院から車で 20 分程の場所に一軒家を新築した。A 市は 2005 年に 1 市 2 町の広域合併によって構成されており、東西が 30km と長い多核分散都市である。病院は東側(旧市)、自宅は西側(旧町)に位置している。病院のある東側に中心となる駅があり、最近マンションも多く建設されており、人口も東側に 8 万人が集中している。東側には、首都圏と北部地域を結ぶ高速道路や幹線道路のほか、JR など幹線交通網が縦貫している。最近では、大型ショッピングモールも出店する地域である。自宅のある西側にはのどかな風景が広がっており、息子たちの小学校も歩いて 25 分ほどの場所にある。かつてこの町には大きな電気会社の巨大な工場があり、そこで働く人たちの多くがあなたの住む地域に新築の家を建て、かつては「ニュータウン」と呼ばれていた。しかしながら、不景気の煽りで 10 年前にその工場が撤退し、職を失った人たちは電車で 3 時間ほどかかる首都圏まで出稼ぎに行くようになった。いまま自動車産業関連の工場があるほか、酪農や農業で生計を立てる人が定住しているが、高齢化も進んでいる。

この市には、西側の山に近い地域で温泉郷や登山やアウトドアスポーツを楽しむことができる観光スポットが点在している。行政としては、観光資源を活用しながら、産業誘致によって安定した財源を確保してきた歴史と実績があるが、東日本大震災に関連して発生した原発事故による放射能の問題が住民生活に影響を落としている。この地域には、購読率 60% を超える地方紙があるほか、FM/AM 放送や市民によるコミュニティ・ラジオや情報誌も発行されている。

あなたは 2 年ほど前から、自分の息子が通う小学校の校医になった。前任者の小児科部長が退職したことを契機に引き継いだのであった。あなたの勤務する小児科は、あなたの他に医師が 4 名いる。地域には総合病院小児科がもう一つあるが、小児科医不足を理由に 3 年前に大学病院が医師の派遣を中止したため、現在は常勤小児科医が 1 名しかおらず、二次医療についてはほとんどがあなたの病院に紹介となる。

学校医として毎年 400 人ほどいる生徒たちの健康診断を行っているが、純朴な感じの子どもたちが多く、自分の息子たちのことを考えてもこの町に定住することになってよかったと感じる。あなたは今年から学校の PTA 役員も務めるようになり、学校に行く機会が多くなっていた。そこで他の保護者から色々な話を聞くようになり、小学校自体には特に問題はないのだが、中学校では不登校、非行やいじめ、ときには妊娠などが問題となることが増えているということだった。あなたの住む地域でも、子ども達が中学生になると東側の駅周辺部にある繁華街に集団で行くことが多くなり、そこでトラブルに巻き込まれることが多いようだ。また最近では、喫煙やアルコールのみならず、薬物などに手を出してしまう中学生や高校生もいるらしい。あなたの町には県立高校が 4 つしかなく、大学はない。首都圏の大学への進学を希望する生徒は、車で 1 時間ほどかかる人口 50 万人の B 市にある高校に入るために下宿や寮で生活する。

ある日の晩、あなたは小児科病棟の宴会に出るために駅近くの店に行った。宴会終了後、他の人たちと一緒に駅まで歩いていると、明らかに未成年の子ども達が酒に酔い喫煙をしていたり、駅周辺にも多くの中学生や高校生がたむろしていた。一緒に歩いていた病棟の看護師が「このあたりって、性犯罪なんかもかなり多いみたいですよ」と言った。そのとき、小児科の上司があなたに話しかけた。「先生、あの子、先生が最初にうちの病院に来た時に担当していた子じゃない?」。あなたが見てみると、金髪で派手な格好をしているが、確かにあなたが昔担当していた女の子の成長した姿だった。当時小学校 1 年生で、肺炎が長引いて 1 か月ほど入院しているうちにあなたとも随分仲良くなった。年齢を考えると、現在はちょうど高校を卒業した頃のはずだ。あなたは思い切って話しかけてみた。少し話すうちに、向こうもあなたのことを思い出したようだ。聞けば、大学への進学を目指すため B 市の高校に入ったが、色々あって結局中退してしまったという。あなたは、どうしてもその理由が気になったので、他の人たちには先に帰ってもらい、近くのファミリーレストランで話を聞かせてもらうことにした。

高校中退の理由は、妊娠と中絶だという。B市の高校に入ったあとは下宿生活となったが、夜に出歩くことも増え、最終的にはそういうことになってしまったということだった。小学校のころの純粋な彼女を知っていたあなたは、大きな衝撃を受けた。彼女をそういう状況に向かわせたものが何なのか、知りたかった。幼いころの自分を知る存在に出会えたことで安心したのか、涙ぐみながらも話してくれた。

「A市にいたときは友達もたくさんいたし気にならなかったけど、B市に移ってからは独りになることも多くなって、自分の生きている意味がわからなくなってしまった。誰も自分のことなんて気にかけてくれない。自分がいなくなったって何も変わらない。そんな風に思うようになった。考えてみたら、A市にいるときから孤独を感じることもあった。お父さんは出稼ぎに出かけていることが多かったから、小学生の頃からほとんど家にいなかったし、お母さんや兄との会話もほとんどなかった。B市で夜の街をふらつくようになって、男の人に声をかけられることが多くなった。男の人に求められると、自分が必要とされているんだと思ってほっとした。よくないことだと自分でもわかってはいたけど、孤独を感じるよりはましだと思った。妊娠と中絶をしてから高校も中退してA市の実家に帰ってきたけど、お父さんは相変わらず家にいないし、お母さんもあまりわたしに関心がない。だから、また夜の街に出るようになった。」

彼女と別れてからあなたは、どこかの学会で聞いた先進国の子どもに関する報告書のことを思い出していた*1。自宅に帰ってあなたは夫に今日あったことを話した。夫は、「他の地域と比べて、むしろ精神科に受診する子どもの数は少ないように思う。だけど、そういう問題が少ないのではなくて、親があまり子ども達に関心がないのかもしれないね。とくにこの辺だと、父親が出稼ぎでいない子ども達も多いみたいだから、精神的な影響も大きいのかもかもしれない。」と言った。

あなたは、例の報告書をインターネットで改めて見てみた。それによると、「疎外感」という部分*2に「最も目を引くのは日本の結果である」として、以下のように書かれていた。

「この国では30%の子どもが、『孤独を感じる』という説明に同意している。これはそれに次ぐ国のほぼ3倍である。」

そうだ。問題なのは、物質的な貧困ではない。「こころの貧困」なのだ。

この報告書の最後には、「結論：子どもたちへより良い環境を」として以下のように書かれている*3。

*1 ユニセフ・イノチェンティ研究所「先進国における子どもの幸せ 生活と福祉の総合的評価」2007年(日本語訳は2010年)。OECD加盟の21の経済先進国における子どもや若者を取り巻く状況に関する研究報告書。「孤独を感じる日本の子どもの割合が突出して高いことが話題になった。英語版、日本語版ともにPDFで閲覧可能。

*2 同報告書、日本語版 68 ページ。

*3 同報告書、日本語版 70~71 ページ

「あらゆる家族は、今日、子どもの生活が作り替えられようとしていること、そしてその推進力が必ずしも子どもにとって最も良い結果を生むとは限らないことに気付いている。同時に、生活の質に影響を及ぼす多くの破滅的な社会問題が子どもを取り囲む変化する環境の中に根を持っているということも、OECD 加盟国の多くの人たちによってますます深く認識されるようになってきている。したがって、最も生命力に満ちた、傷つきやすい年頃の子どもたちに何が起きているのかを改めてよく知り、それを制御し、そして監督する試みを行うべき時であると、多くの人達を感じている。」

あなたは子どもたちの部屋に行って、彼らの寝顔を見ながら思った。今日彼女から聞いた話は、決して他人事ではない。自分の子ども達の未来のためにも、母親として、小児科医として、この街の子ども達のために何かしなければいけない。

あなたは決意した。この街の子ども達の「こころの貧困」を解決するために、行動を起こそう。彼らの「小さな声」を、社会に届けるのだ。

DISCUSSION

1. ケースで記述されている課題が発生する構造を分析してください。
2. 「あなた」が活動を設計する際に念頭に入れておきたい地域の資源や特性を洗い出してください。
3. 「小さな声」を届ける先にある、「あなた」の活動の中長期的なゴールを設定したうえで、それに到達するためのマーケティング戦略(協力を動機づけ、協力行動を誘発するためのコミュニケーション戦略)を描いてください。